



開港港則

明治三十年二月十九日配付



3505



414  
A2677



號

開港港則

第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許

シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ

定ム

横濱ノ港界ハ十二天(マンダリン、  
ブラフ)ヨリ燈船マテ夫ヨリ正北

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

ニ向ヒ鶴見川口ノ東岸マテ引キ  
タル一線内ニ含マル

神戸ノ港界ハ生田川ノ舊口ヨリ  
南方ニ向ヒ引キタル一線ト和田  
崎ヨリ北東ニ向ヒ引キタル他ノ  
一線トノ二線ヲ經界トナシタル  
面積内ニ含マル

新潟ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシニ  
海哩半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一  
弧内ニ含マル  
夷港ノ港界ハ椎止村ヨリ津居村  
外堀マテ引キタル一線ト加茂湖  
東岸港町ヨリ同湖北西岸加茂村  
マテ引キタル一線トノ内ニ含マ

ル

大阪ノ港界ハ武庫川口ノツリ、  
ポイントヨリ南微西ニ向ヒ引キ  
タル一線ト大和川口ヨリ引キタ  
ル一線トツリ、ポイントヨリ六  
海哩大和川口ヨリ五海哩ノトコ  
ロニ於テ相接スル其二線内ニ含

マル

長崎ノ港界ハ神崎ヨリ女神ニ引  
キタル一線内ニ含マル  
函館ノ港界ハ阿野間崎ヨリ南方  
沖合半海哩ノ所ヨリ上磯村有川  
口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ  
含マル

第二條 各船舶ハ入港スルニ當リ其  
國旗及信號符字ヲ揚クヘシ定期郵  
便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代  
用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船  
舶ノ著港ヲ港長ニ届出タル後ニア  
ラサレハ之ヲ引下スヘカラス

著港届ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ  
外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出  
スヘシ但シ著港届ヲ差出シタル後  
ニアラサレハ一切ノ船舶ニ對シ稅  
關手續ノ便利ヲ與ヘサルモノトス

第三條 各船長ハ其著港ニ際シ自由  
交通ノ許可ヲ受クルマテハ其船舶

ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ

第四條 港長ノ端艇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ示定スヘシ而シテ各船舶ハ止ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其泊

船所ヲ去ルヘカラス但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條 港長ハ其職務ノ間常ニ制服ヲ著ケ其端艇ニハ別紙雛形ノ如キ旗ヲ掲クヘシ港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫

船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮力  
果シテ實行セザレ居ルヤ否ヲ検査  
スルコトヲ得

第六條 如何ナル船舶モ公ケノ航路  
ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ  
障礙スヘカラス  
引ブ、ブーム「ス」ヲ接キ出シタル船舶

ニシテ其「引ブ、ブーム」カ航海ノ自  
由ヲ障礙スルトキハ港長ノ請求ニ  
從ヒ之ヲ取込ムヘシ

第七條 港界内ニ碇泊シ又ハ運航ス  
ル各船舶ハ日没ト日出ノ間ニハ海  
上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シ  
タル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ

第八條 暴風雨ノ來ラムトスルトキ  
或ハ警報信號ヲ掲ケタルトキハ各  
船舶ニ於テ直ニ一個又ハ一個以上  
ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲ス  
ヘシ尤モ汽船ハ此外別ニ蒸氣ヲ發  
生セシムヘシ

第九條 常用ニ超過シ爆發物又ハ容

易ニ燃燒スヘキ物料ヲ積載シタル  
一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニ  
テ港長ノ指揮ヲ待ツヘシ斯ク指揮  
ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日没ノ間  
ニハBノ信號日没ト日出ノ間ニハ  
紅燈ヲ前櫓ノ頂上ニ掲ケヘシ  
各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニ



アリサレハ前記ノ物料ヲ積入レ又  
ハ荷卸スヘカラス

第十條 休繋中又ハ修繕中ノ船舶及  
總テ「ヤツト」倉庫船貨船及端艇等ハ  
特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇  
泊スヘシ

第十一條 船舶カ港界内ニ於テ火ヲ

失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船  
鐘ヲ打鳴スヘシ且ツ日出ト日没ノ  
間ニハNMノ信號ヲ掲ケ日没ト日  
出ノ間ニハ断エス紅燈ヲ上下スヘ  
シ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出  
ト日没ノ間ニハGノ信號ヲ掲ケ日

没ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火  
ヲ示スヘシ

前記ノ如キ信號ニ用スル場合ノ外  
港長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ港  
界内ニ於テ銃砲及烟火等ヲ發スル  
コトヲ得ス

第十二條 帝國政府ニ於テ流行病若

クハ傳染病(猩紅熱、天然痘、熱類)アル

地ト布告シタル地ヨリ來著シ又ハ  
航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ  
港界外ニ來リ日出ト日没ノ間ニハ  
黃旗ヲ日没ト日出ノ間ニハ紅白二  
燈ヲ上下ニ連子前橋ノ頂上ニ掲ク

ヘシ又前記ノ船舶ハ當該衛生官吏  
ノ臨檢ヲ受クヘシ  
衛生官吏臨檢ノ為メ其船舶ニ近寄  
リタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得  
ル為メニ航海中現ニ該病發生、有  
無及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通  
知スヘシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマ  
テ黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下ス  
ヘカテス且ツ當該衛生官吏ノ允許  
ヲ得ルニアラザレハ何人タリトモ  
上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交  
通スルヲ許サス

前數項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル

船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染  
病ノ内何病ニテモ發生シタルトキ  
ニ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接ス  
ルトキハ其泊船所ヲ移轉スヘシ  
牛羊等傳染病アル地ヨリ來著シ又  
ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ

當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニマラ  
サレハ牛羊等又ハ其死体皮革又ハ  
骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコ  
トヲ許サス

第十三條 港界内ニ於テ死体荷足灰  
燼塵芥等ヲ海中ニ投棄スヘカラズ  
石炭荷足其他之ニ類スル物料ヲ積

卸スルトキハ其海中ニ脱落スルヲ  
防ク為メ必要ノ豫防ヲ為スハシ  
何船舶ニテ七港ニ害アル一切ノ物  
料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ  
脱落セシメタルトキハ港長ヨリ其  
旨命令ニ接セハ該船舶ニ於テ之ヲ  
取除クハシ若シ取除カサルニ於テ

ハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ  
取除カシムルコトヲ得

第十四條 船舶出港セントスルトキ

ハ其旨港務局ニ届出テ且ツ出帆旗  
ヲ引揚クヘシ  
一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著  
港及出帆ニ對シ單ニ一回ノ届出ヲ

為スヲ以テ足レリトス

第十五條 一港内又ハ其附近ノ公ケ

ノ航路ノ妨害トナルヘキ總テノ難

破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定

セル時間内ニ其所有主ニ於テ之ヲ

取除クハシ若シ港長ノ指定セル時

間内ニ此命令ヲ遵行セサルニ於テ

ハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ

取除カシメ又ハ破壊セシムルコト

ヲ得

第十六條 港務局ハ定期郵便汽船ノ

為メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮

標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使

用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用

料ヲ拂ハシムヘシ

第十七條 燈船、信號用浮標又ハ立標

ニハ、鏈、綱其他ノ船具ヲ繫クヘカラス

船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ造營物ニ乘掛ケ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ、其修繕又ハ再設ノ爲メ

ニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十八條 本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ、二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ

負フモノトス

第二十條 本則ニ依リ船舶ニ科シタ

ル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スル  
力或ハ之ニ對シ港長ノ満足スルハキ  
擔保物ヲ港長ニ差出スニアラサレ  
ハ其船舶ノ出港ヲ許サス

第二十一條 本則ニ於テ港長ト稱ス

ルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト  
稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問ハス  
船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ  
港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記  
セル諸港ノ一ヲ指ス

第二十二條 各港ニ於テ其一部分ヲ  
軍艦ノ碇泊所トシテ取除ク置クハ



第二十三條 本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルルハキモノハ第四條、六條、十條、二十一條ノ規定及第十三條第一項及二項ノ規定ニ限ル

第二十四條 本則施行ノ時期及場所ハ逋信大臣之ヲ告示ス

本則實施ニ關スル細則ハ逋信大臣之ヲ發布ス

第五條、旗章雜形





